

本日の主な論点

～ コミュニティの未来 ～

1 地域コミュニティの形はどう変わるか

都市、郊外、農山漁村それぞれの地域コミュニティの未来をどう描くか。

人口減少・高齢化で活動の継続が難しくなるコミュニティが増える一方で、テレワークの普及や働き方の多様化により地域に関わる人が増える可能性もある。現在想定される様々な社会潮流は、地域コミュニティにどのような影響を与えるか。

分散居住や多所居住の未来を描くとき、そこに成り立つ地域コミュニティはどのようなものか。定住せずに地域と関わる「関係人口」は、地域コミュニティにどのような意味を持つか。ネットにつながる地域コミュニティはあり得るか。

2 地域コミュニティの機能はどう変わるか

地域コミュニティは、防災、防犯、環境美化、見守りなど様々な機能を担っている。今後地域コミュニティが担うべき重要な機能は何か。新たに担うべき機能はあるか。地域の担い手が減る中で、それらの機能を誰がどう担うか。必要な機能を持続的に担い得る地域コミュニティとなるために何が必要か。

地域コミュニティの未来の姿として、地域の共有財産を元手に経済活動を展開しながら、自立的に地域運営（経営）を行う主体を立ち上げていく方向性も考えられる。そうした未来を実現するために何が必要か。

3 これから求められるコミュニティとはどのようなものか

血縁、地縁、社縁（企業等の利益共同体による結びつき）に加えて、人は何でつながり、どんなコミュニティを求めるのか。これから増えていくのは、どのようなコミュニティか。ネット・コミュニティの広がり、リアルなコミュニティの活性化につながるか。

人が育つコミュニティをどう生み出すか。そうしたコミュニティには何が求められるか。コミュニティを生み出す場（サードプレイス）をどう作るか。

4 コミュニティは社会的弱者やマイノリティを支えられるか

誰もが安心して暮らせる社会の実現に向け、社会的弱者やマイノリティを地域の中で取り残さず、支えていく必要がある。特に、外国人住民は今後増えることが見込まれ、2050年には地域の中で当たり前存在となり得る。

これらの人々を、社会保障などの制度的対応だけでなく、人と人とのつながりにより支えることはできるか。そのためにどのようなコミュニティが求められるか。